

## 社会福祉の向上発展

ほり い き いち ろう  
堀 井 喜 一 郎

(86歳)

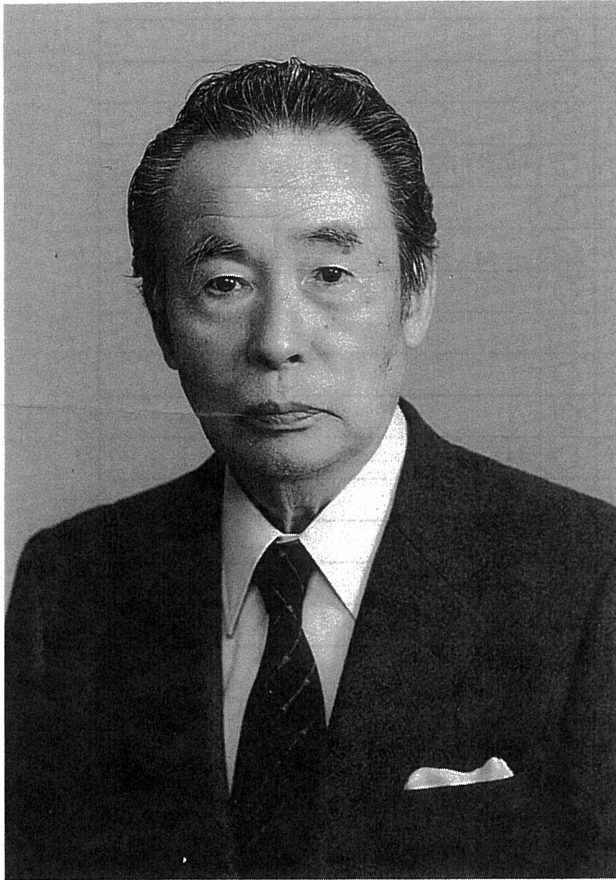
住所

秋田市

昭和42年から50年まで感恩講児童保育院長として児童の福祉向上に尽くした。

また、秋田県社会福祉審議会委員のほか、秋田県社会福祉協議会理事、秋田県民間社会事業福利協会理事長等を歴任、豊富な知識と経験、優れた指導力で各種施策を提言するとともに、民間社会福祉施設の経営の安定と発展、福祉事業従事者の福利厚生制度の確立等社会福祉の充実発展に大きく貢献している。

さらに、54年から現在まで、秋田県厚生協会理事長として救護施設、身体障害者療護施設、特別養護老人ホーム等の施設を経営し、入所者の福祉増進に尽力している。



## 俳文学の研究と発展

ふじ  
藤

わら  
原

ひろし  
弘

(82 歳)

住所  
秋田市

昭和 8 年、大学を卒業と同時に慶応義塾大学教授横山重行氏らと共に説教古浄瑠璃の研究に取り組み、著書 4 冊を刊行。

昭和 35 年に秋田俳諧の研究を始め、41 年「江戸時代の秋田の俳人たち」、46 年には秋田俳書大系近世初編を刊行する。

49 年から 51 年に、秋田俳書大系、吉川五明集を刊行し高い評価を得た。

56 年、俳書数 247 編、県内外の俳人 9,238 名を網羅した俳書大系の近世中後期編全 7 冊を刊行する等秋田の俳諧研究の向上に大きく貢献している。

現在、俳文学会に属し、秋田の大俳人吉川五明研究の第一人者としてまた、秋田の俳文学会の代表として活躍している。



## 洋画の普及発展

す ぎ し ほ  
菅 生 昭 邦

(80 歳)

住所

南秋田郡天王町

昭和 24 年教職を辞した後、本格的な絵画の創作活動に入り数々の入選作品を生み出し内外から高い評価を得、個展でも好評を博した。

地域においては、45 年から地元の小学生を対象に武者絵を描いたタコ絵制作を指導するとともに、男鹿南秋地区絵画同好会の絵画展出展作品や町の絵画教室等の作品にも適切な助言指導をするなど、絵画の普及発展に大きく貢献している。

また、天王町の地域活性化の一大プロジェクトである東湖八坂神社の奇祭を町のイメージにつなげるため、古代の神々にまつわる伝説的な描写絵の指導など地域の振興にも尽力している。



## 華道の普及発展

さ とう  
佐 藤 スズエ  
(荇安清榮)  
(76歳)

住所  
秋田市

昭和24年秋田県華道連盟の設立に参画、以来理事等を歴任し53年から57年まで会長として華道連盟の発展に尽くした。

50年の第1回東北・北海道いけばな展や63年の秋田県華道連盟40周年記念東北華道家元展、平成元年の秋田市市政100周年記念日本海沿岸華道展等の運営に参画し成功に導いた。

一方、昭和43年からいけばな使節、秋田市文化使節として、東南アジア、ドイツ、中国等を訪問し国際交流を深め、いけばなの普及発展に大きく貢献している。

また、25年清栄流を創設し、今日まで後進の指導育成に努めるとともに、隔年開催の日本いけばな芸術展に出瓶するなど活躍している。



## 産業経済の振興発展

おく やま りょう ぞう  
奥 山 諒 蔵

(75 歳)

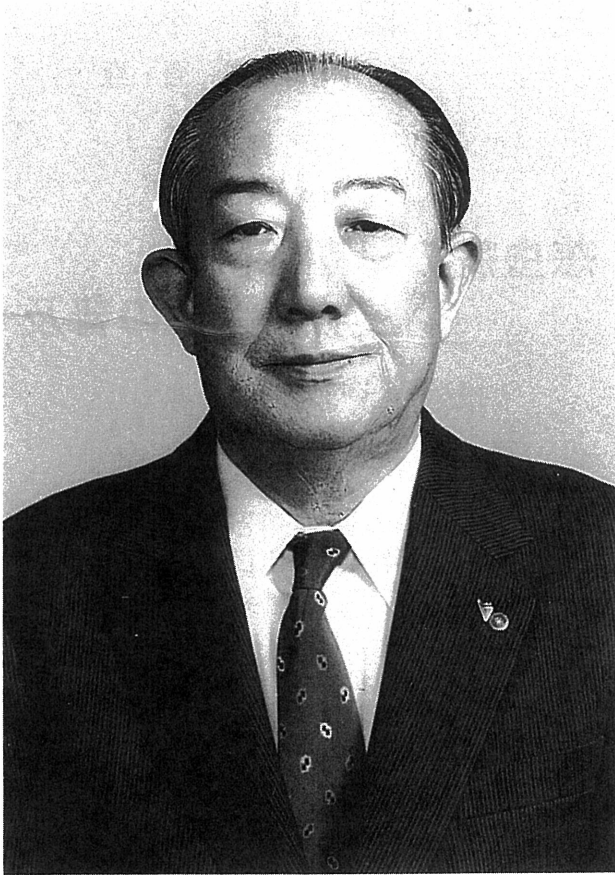
住所

横手市

昭和 34 年以来、横手商工会議所の議員、副会頭、会頭として、商工会議所の組織率の向上や小規模企業の経営改善に尽力するとともに、商業近代化地域計画の策定、卸売団地の造成など地域の産業経済の振興発展に多大な貢献をしている。

また、若年者の地元企業への定着をはかるため、年少労働者表彰制度を創設するとともに、若手経営者の育成、婦人経営者の活動組織づくりに尽くしたほか、社員教育講座、技術講習会、研修会などを開催し人材の育成に努めている。

さらに、横手川の親水性ゾーンの実現や商店街の街路灯の設置、側溝を改良した流雪溝の設置など地域づくりに貢献しているほか、全国地質調査業協会連合会副会長として業界の発展にも寄与している。



## 医療・保健の向上発展

じん ば こう せい  
神 馬 恒 成

(72 歳)

住所  
能代市

昭和 41 年から秋田県医師会の要職を務め、会の充実と発展に大きく寄与したほか、能代山本地区の医師会の一本化をはかるため高い指導力を発揮した。

この間、日進月歩の医療の成果を地域住民の保健・医療・福祉の向上に役立たせるため生涯教育講座、秋田県救急医療研修会など数多くの講習会、研修会を開催するとともに県民健康意識調査等医療の実態調査を行い県民の健康教育、地域医療の向上発展に多大な貢献をしている。

さらに、休日応急診療所の開設、在宅当番医制の導入などの医療体制の整備に力を注ぐとともに、高齢化社会に対応した総合福祉エリアの整備、学校保健の振興と児童・生徒の健康増進に尽力している。



## 恙虫病の早期診断 ・早期治療の普及

す とう つね ひさ  
須 藤 恒 久

(66 歳)

住所  
秋田市

昭和 46 年秋田大学医学部微生物学講座初代教授となり、臨床ウイルス学の先覚として多くの実績をあげた。

昭和 50 年代に全国的に問題となっている恙虫病の研究に取り組み、55 年免疫ペルオキシダーゼ反応による迅速診断法を開発し、全県一貫した恙虫病対策を確立、その活動は県内に留まらず、広く全国各地の恙虫病の早期診断と早期治療の普及に大きく寄与している。

また、開発された方法は WHO の標準診断法として推薦され、東南アジア各国でも使用されている。

さらに、急性感染症のサーベイランス事業を全国に先駆けて開始するとともに、風疹免疫検査体制を確立し先天性風疹症候群の出生防止に寄与するなど本県の医療・保健の発展に貢献している。